




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第776号	氏名	島崎貴治	
学位審査委員		主 査	柳原克紀	
		副 査	平山壽哉	
		副 査	青柳 潔	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 フィリピンは、結核患者の高蔓延国であり、結核は国内死亡原因の第5位である。結核高蔓延国における結核病棟入院患者の院内死亡に関する研究はほとんど報告されていない。 本研究ではフィリピン、マニラ市内にある国立感染症病院へ入院した結核患者の特性および死亡率を明らかにし、死亡に関係する危険因子を解析することを目的とした。この目的は妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 マニラ市内貧困地区にある国立感染症病院結核病棟へ、2009年10月1日から2009年12月31日までに結核と診断され、HIV感染が除外されたすべての13歳以上の入院患者を対象として後ろ向き研究を行った。患者情報は、病院診療録と検査室記録より系統的に収集した。死亡退院に関係する危険因子については、単変量および多変量解析を行った。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 マニラ市内貧困地区の結核病棟における院内死亡率は、これまでの報告例と比べても著しく高値であった。結核高蔓延国の結核病棟入院患者において、細菌性肺炎の合併が死亡率へ影響していることが初めて示された。また、喀血・血痰は院内死亡に対して保護的に作用していることが判明した。その理由として、これらの症状が、患者の早期受療行動を促したと考えられた。</p> <p>以上のように本論文は感染症学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>				

(注) 報告番号は記入しないこと